

吉野 秀実さん

望郷

春の訪れと共に飛騨各地で例祭が催行される季節となりました。又新社会人が夢と希望を持ってスタートする季節でもあります。市内の企業でも多くの若者が第一歩を踏み出しました。しかし多くの若者が故郷を離れ旅出って行った事も事実です。飛騨市の人



松永さやかさん

驚きの「コケ」文化？

宮川町に夫婦で移り住んで今年の四月で三年が経ちました。こちらにきた当初は迫る山峡や透き通る豊かな川に驚く毎日でしたが、ある日ご近所の方からの「コケ食うか？コケ飯にするとうまいぞ」という言葉にはもっと驚かされました。

口減少は年々深刻になっていきますが、大きな産業の無い飛騨ではやむを得ない事なのでしょうか？しかし逆にUターンしたい若者がいることも事実です。Uターンインターン者に対して色々な対策はある様ですが一番の問題は再就職先です。市と企業がもっとコラボし、安心して飛騨市へ帰れる様な策は無いものでしょうか。

古川町 吉野 秀実

市民の声

「コケ」が「キノコ」を意味する方言だと知らなかった私は「コケ」を岩に生える緑の苔だと思い、「宮川の人たちは苔を食べる習慣があるのか、しかもお米と一緒に炊くなんてすごい食文化だな」と勘違いしていました。今ではその話も笑い話になり、私達夫婦も地元で採れた香り高い「コケ」を楽しんでいます。

宮川町 松永さやか



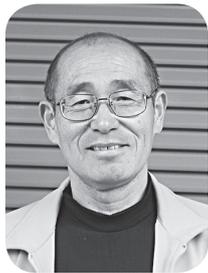
みかん狩り

ひとから人へのつながり

昨年も河合、宮川小学校四年生が海津市南濃町でみかん狩りを体験。みかんをほおばりながら「家族へのおみやげ」と、袋一杯にみかんをちぎる様子は微笑ましい光景でした。

河合村時代に縁あつて始まった南濃町との交流ですが、今年は17年目を迎えました。まだ、細いパイプでのつながりですが、もっと太いものになつたらいいと思います。飛騨市の多くの子ども達にみかん狩りの体験をしてもらい、海津市の子ども達には、ぜひ、飛騨の自然や雪に触れてほしいと思います。このような事をきっかけに、交流人口が増え地域の元気が繋がってほしいと願っています。

河合町 田口 理子



林 健吉さん

「北飛騨の森」ガイド研修

2年前、飛騨市観光協会でも募集された「北飛騨の森」ガイド養成講座に応募いたしました。飛騨市民でありながら深洞、池ヶ原、天生の3湿原は言うに及ばず、大白川、小

白木にも足を踏み入れた事はありませんでした。そのいずれにも現地研修が企画されており、他所からの観光客の気分でも申し込んだのでした。著名で重厚な講師陣ということもありましたが、いづれの現地からも、感動をして帰って来ることとなりました。そして、そこに住んでいる市民なんだと気づいて、大いに誇りを持つ事となったのです。論より証拠、3湿原などへとにかく行ってみましょう。

神岡町 林 健吉

編集後記

アベノミクス(大胆な金融政策・大型補正予算の財政政策・民間投資を喚起する成長戦略)が叫ばれている今日この頃である。男性の場合、年収3百万円を境に結婚意欲が大きく変わるそうである。結婚・出産のハードルを越える原動力は、景気の回復と雇用の創出である。国の衰亡に直結する少子化を食い止めるあらゆる「仕掛け」に待ったなしである。市が進める三世代同居の住宅の新築・購入・増築補助金が一助となり、人口増に繋がればと願う。ポストンマラソンのテロ事件には、ショックを受けた。マラソン大国と言われる日本も警戒対策がされるようだ。最近日本各地で起きる地震、他人事ではない。「備えあれば憂いなし」である。米・味噌・非常食の保存や、地震に遭遇した時の対応・危険回避について、今一度点検と話し合う場を各家庭で持つていただければと思う。

(中嶋 国則)